

6-2. 噴火後も残る影響

1. 人口の減少

01. 虻田町及び壮瞥町の人口が減少、特に虻田町の人口が大きく減少した。

道は8日、今年の国勢調査(10月1日現在)の速報を発表した。道内の総人口は568万2950人で、前回調査時(1995年)と比べ、9371人(0.2%)減少した。前々回の90年に続き2回目のダウンで、拓銀の経営破たん以降、長引く景気低迷で道外に流出したのが要因とみられる。

(中略)減少率が最も高かったのは、胆振管内虻田町の20.7%の大幅ダウン。3月の有珠山噴火による避難生活が長期化したのが影響し、2184人減って8352人となった。町が把握しているだけで、10月3日現在で1077人が室蘭市などの公営住宅や仮設住宅に入居しているという。[『毎日新聞』(2000/12/9 地方版)]

2000年の数字では、有珠山噴火のマイナス影響が最も明瞭に現れたのは、噴火当該地域で洞爺湖温泉を抱える虻田町であり、「昭和新山」観光の壮瞥町である。特に2000年調査での虻田町の減少率の高さは際立っており、95年調査時から20%以上の減少である。(中略)したがって、それ以外の地域の数字と比較しても、2000年噴火の影響は虻田町に集中的に現れたようである。[小田清「北海道・有珠山噴火の歴史と周辺地域の概要」『開発論集 第71号』 北海学園大学開発研究所(2003/3),p.17]

02. 地域的な人口推移では、洞爺湖温泉町で大きく減少、月浦地区で増加した。

1977年の有珠山噴火時は、自然増減に関しては、それまでの傾向から見て際立った特徴は見いだせない。しかし、社会増減に関しては転入も増えているが、それ以上に転出が増えている。その結果、虻田町全体の増減人数も200~300人減と極めて高くなっており、「危険地域」という風評被害による観光客減がサービス産業全体の低迷につながり、それが人口移動につながったのかもしれない。それ以上に噴火の影響が人口移動に出ているのが2000年の数字である。自然増減に関しては、それまでの趨勢で推移しているが、社会増減に関しては明らかに異なっている。それまでの傾向は、転出と転入がほぼ同じ数字を示していたが、2000年の動向は転出が転入のほぼ2倍を示している。また、この人口変動を、虻田町内の地域的な在住人口の変動で見ると、表のようである。すなわち、1995年から2000年の増減は約2,000人の減であるが、地域的には洞爺湖温泉町の減少が虻田町全体の数に相当している。また、大きく増加している地域は月浦地区で、噴火の影響がない安全な地域として、避難住民等が移住した結果であろう。[小田清「北海道・有珠山噴火の歴史と周辺地域の概要」『開発論集 第71号』 北海学園大学開発研究所(2003/3),p.17-19]

表 虻田町字別人口の推移
 ([『開発論集 第71号』 北海学園大学開発研究所(2003/3),p.18]より)
 (人)

地域・年次	1990年	1995年	2000年	増減
総数	10,699	10,536	8,352	-2,184
大磯町	18	18	17	-1
青葉町	537	501	568	+67
旭町	307	251	231	-20
本町	906	788	619	-169
浜町	298	235	251	+16
栄町	701	726	747	+21
高砂町	2,287	2,317	2,157	-160
入江	1,685	1,807	1,649	-158
泉	523	653	695	+42
三豊	40	31	17	-14
清水	306	260	352	+92
洞爺湖温泉町	2,811	2,718	687	-2,031
月浦	105	87	246	+159
花和	175	144	116	-28

注1)増減数は2000年 - 1995年人口である。

注2)「国勢調査」各年による。

2. 観光客の減少

01. 2000年度の虻田町の宿泊客延数は30万7,000人と、1999年度の77万6,000人の37.9%にまで大幅に落ち込んだ。

2000年7月末の再開以後の観光客の回復状況は8月で10%、9月30%、10月には約50%程度まで回復したといわれている。しかし、観光シーズンの大部分を失った2000年度の宿泊客延べ数は1999年の77万6,000人から30万7,000人と37.9%にまで大幅に落ち込んだ。[奥田仁「有珠山噴火と虻田町の観光・雇用」『開発論集 第72号』 北海学園大学開発研究所(2003/6),p.46]

02. 伊達市・虻田町・壮瞥町周辺の市町村の観光客数も大きく減少した。

洞爺湖周辺以外でも、風評による被害等により、室蘭市が前年比66.8%、登別市が77.9%、白老町が82.1%、大滝村が76.1%にとどまるなど、西部地区では大幅に入込客数が落ち込んだ。[『平成12年(2000年)有珠山噴火災害報告』 北海道開発局(2001/6),p.19]

白老町の平成12年度上半期(4-9月)の観光客入り込み状況がまとまった。入り込み総数は109万616人で、有珠山噴火の影響による通過型観光の減少もあって、前年同期比23万7655人、17・9%の大幅減となった。

上半期の入り込み数は、宿泊7万2535人(前年同期比11・4%減)、日帰り101万8081人(同18・3%減)。地区別にみると、虎杖浜温泉地区が58万8150人で同20・7%減。白老地区は50万2466人の同14・3%減といずれも大きく落ち込んだ。[『室蘭民報』(2000/11/17朝刊)]

03. 観光客の入込数・宿泊客数は、1999年度と比べて2001年度には全体の8割、2002年度には9割近くに回復している。

噴火前の1999年度と比べて観光客の入込数、宿泊客共に2001年度には全体でほぼ8割、2002年には9割近くに回復していることがわかる。町観光協会、町観光課の評価でも学生、つまり修学旅行生の回復はまだ遅れているが、一般客に関しては不況による落ち込みを勘案すればほぼ回復したといってよいと見ている。修学旅行については例年洞爺湖を訪れていた学校が、2000年の噴火のときに急遽別の宿を手配し、ここから復帰するには多少の時間を要すると見られている。[奥田仁「有珠山噴火と虻田町の観光・雇用」『開発論集 第72号』北海学園大学開発研究所(2003/6),p.46]